



存在意義

PURPOSE

社会を止めない。
進化をつなぐ。

物流が果たす役割は、単にモノを預り、運ぶに留まらないと私たちは考えます。それは人と人、産業と産業、国と国など、あらゆるものをつなぐ太いパイプであり、社会を根底から支えるインフラとしての重要な役割を担っています。そして物流が構築する揺るぎない基盤の上に、人々の毎日の暮らしがあり、経済の活発な営みがあり、社会は新陳代謝をくり返しながらか進化を続けていきます。「社会を止めない。進化をつなぐ。」まさにこのために三井倉庫グループは存在しています。創業から100年以上の永きにわたり、私たちは物流を軸に時代のニーズに応じて業容を拡大し、社会の進化につなげてまいりました。変化の激しいこれからの時代において、物流が果たす役割はますます大きくなっています。世界をより良い方向へ動かし、心豊かで持続可能な社会を実現するために、今日も私たちは物流の未来を見据えて活動しています。

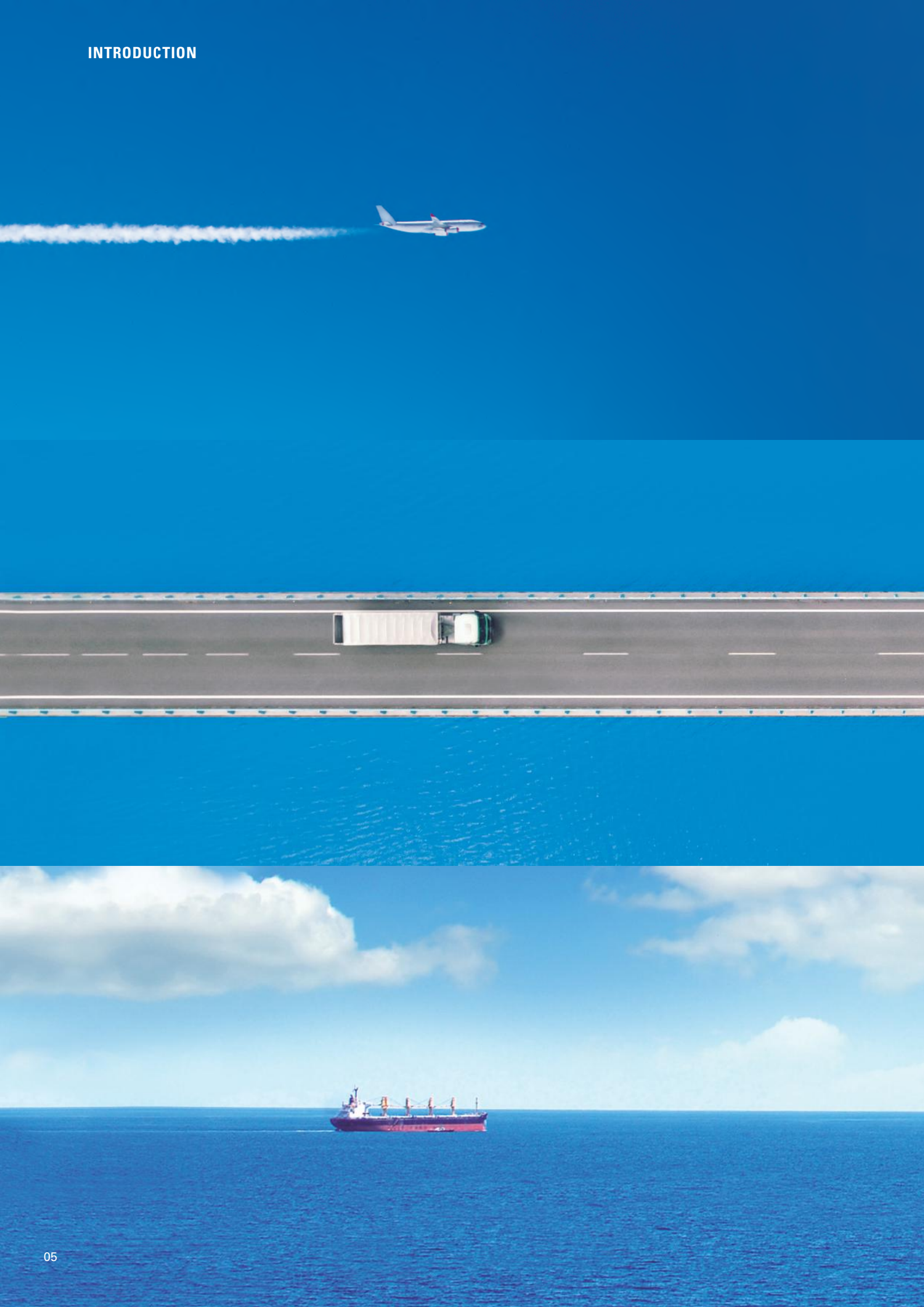
価値観・行動指針

VALUES

- P R I D E** 社会を止めないことの責任と誇り
- C H A L L E N G E** 顧客視点と社会視点の、提案力と実行力で挑む
- G E M B A** 現場は原点であり、進化の起点であり続ける
- R E S P E C T** 多様な個を受け入れ、新たな価値を生み出す

たとえ企業が崇高な目標を掲げても、それを着実に実行するためには従業員一人ひとりの深い理解と行動が必要です。私たちが掲げるPURPOSEのもと、VISIONを実現していくために、あらためて一人ひとりが心に期すべき価値観と行動に移す際の指針を、「PRIDE」「CHALLENGE」「GEMBA」「RESPECT」の4つのVALUESに集約しました。それは社会基盤としての物流を堅持するとともに、お客様や社会の課題を抽出し、新たな提案や挑戦につなげること。さらに、物流の価値創造の源泉である現場を起点に、多様な個性を認め合う社風を通じて創発を促し、心豊かな社会の進化に資する存在となることです。従業員の一人ひとりが4つのVALUESを胸に抱き、それぞれの能力を最大限に発揮することで、持続的な価値を創出できる企業グループの実現を目指してまいります。





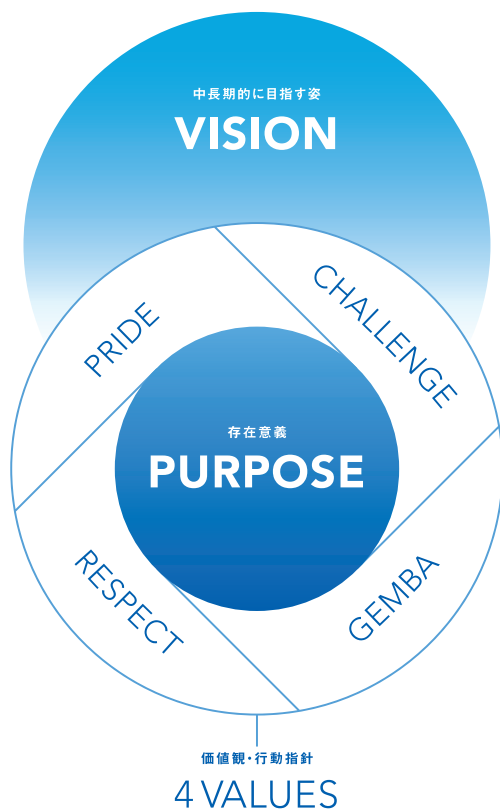
中長期的に目指す姿

VISION

いつもも、いざも、これからも。 共創する物流ソリューションパートナー

私たちは歴史の中で、物流パートナーとしてお客様の成長を支え、信頼を育みながら共に歩んでまいりました。信頼は一日にして得られるものではありません。それは雨の日も、晴れの日も、平時はもとより有事の際にも、お客様の期待に最大限にお応えし続けた結果として醸成されるものだと考えます。社会課題が複雑化し、社会そのものが大きく変化する中で、物流の重要性はますます高まり、単に「モノを預かる・運ぶ」だけでなく、地球環境をはじめ、さまざまな課題解決に結びつく効率的かつレジリエントなサプライチェーンの構築が求められています。私たちはいかなる時も、グループ内はもとよりあらゆるステークホルダーと共創することで、お客様の企業価値向上を実現する物流ソリューションパートナーであり続けることを目指してまいります。

グループ理念



VISION 中長期的に目指す姿

いつもも、いざも、これからも。
共創する物流ソリューションパートナー

PURPOSE 存在意義

社会を止めない。進化をつなぐ。

4 VALUES 価値観・行動指針

PRIDE……………社会を止めないことの責任と誇り

CHALLENGE…………顧客視点と社会視点の、提案力と実行力で挑む

GEMBA……………現場は原点であり、進化の起点であり続ける

RESPECT……………多様な個を受け入れ、新たな価値を生み出す

バリューレポート2022 の発行にあたり

地球環境問題や地政学リスクの高まりなど、社会を取り巻く課題は、深刻かつ複雑になっていくものと想定されます。このような社会の変化に対応していくことは、企業として必要不可欠なことであり、事業を通じて社会課題の解決に取り組んでいくことが求められていると考えています。

不確実な時代においても、三井倉庫グループが、経営基盤をさらに強化し新たな成長フェーズへと進んでいくために、2022年5月にグループ理念を見直しました。PURPOSE、VALUES、VISIONという新たなグループ理念のもと、長期的な価値創出に向けて邁進してまいります。

当社グループでは、2019年から統合思考の「バリューレポート」を発行しており、今回が4回目の発行となります。当社グループはこの「バリューレポート」を重要なツールとして位置づけ、財務情報と非財務情報を体系的にまとめることで、株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆様へ当社グループをご理解いただくことを目的に作成しています。今回の「バリューレポート2022」では、新たに策定しました2027年3月期を最終年度とする5カ年計画「中期経営計画2022～深化による攻勢～」

を中心に、当社グループの強みや価値創造のプロセスを明らかにしつつ、中長期の成長戦略や価値創造ストーリーを明確にしています。

本レポートの作成にあたっては、IFRS財団が提唱する「統合報告フレームワーク」や、経済産業省が提唱する「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」なども参照しながら、当社グループの横断的な考え方を集約した上で各部門が協力し、誠実に作成しています。私は、その作成プロセスや記載内容が正当であることを確認しました。

当社グループは、今後も「バリューレポート」を、株主や投資家をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様との建設的な対話を進めるためのエンゲージメントツールの一つとして活用し、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。

2022年9月

古賀 博文

代表取締役社長／グループCEO
取締役会議長

CONTENTS

01 INTRODUCTION

01	PURPOSE
03	VALUES
05	VISION
07	グループ理念／バリューレポート2022 の発行にあたり

09 CEO MESSAGE

09	グループCEOメッセージ
----	--------------

15 VALUE CREATION STORY

15	At a Glance
17	歴史
19	価値創造プロセス
21	経営資本
23	ビジネスモデル
25	マテリアリティ（重要課題）
29	価値創造への取り組み事例

31 VALUE CREATION STRATEGY

31	新中期経営計画
31	過去の中期経営計画の振り返り
33	中期経営計画2022
37	CFOメッセージ
41	DX戦略
44	中期経営計画2022とマテリアリティの関係
45	マテリアリティ
45	経済 共創を通じた持続可能で強靱な物流サービスの提供
49	社会 安全、多様性、働きがいのある労働環境の実現
53	環境 積極的な環境負荷低減による 脱炭素社会・循環型社会への貢献

57 事業戦略

57	事業概況
58	三井倉庫ホールディングス
59	三井倉庫
65	三井倉庫エクスプレス
67	三井倉庫ロジスティクス
69	三井倉庫サプライチェーンソリューション
71	三井倉庫トランスポート

73 FOUNDATION FOR VALUE CREATION

73	人権
74	ステークホルダーエンゲージメント
75	社外取締役座談会
79	コーポレート・ガバナンス
87	取締役及び監査役

89 FINANCIAL SECTION & CORPORATE DATA

89	財務・非財務データハイライト
91	5年間の連結財務データ
92	5年間の非財務データ
93	連結財務諸表
97	グループ・ネットワーク
98	会社情報・株式情報

【編集方針】

本レポートを中長期の成長に向けた経営戦略や、成長の基盤となるESG情報、業績・財務情報などを盛り込んだディスクロージャーとして位置づけ、投資家の皆様を主な対象として発行しています。

また、ホームページにおいても、当社のさまざまな情報を網羅して掲載しています。読者の皆様には、本レポート及びホームページを併せてご覧いただくことで、当社へのご理解を深めていただければ幸いです。今後も読者の皆様のご期待に沿える誌面編集に努めてまいります。

【将来の見通しに関する免責事項】

本レポートに記載されている当社の将来の業績に関する計画・戦略・見通し・経営に関する取り組みなどのうち、歴史的事実でないものは、将来予測であり、これらは現在入手可能な情報に基づいた仮定及び判断です。実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、需要や商品の価格、新しい商品の開発・販売や原材料価格・為替レートの変動などにより、これらと異なる結果となる場合があります。